

2013/14 WEEKLY BULLETIN



国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

市原ロータリークラブ会報

第2428 回例会 2013 年 11 月 10 日(日)

SAA(司会)／

会報担当／篠田会員

事務局 五井グランドホテル 市原市五井 5584-1 TEL.0438-38-3535 例会場 東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート



ENGAGE ROTARY
CHANGE LIVES

●点 鐘 2013-2014 年度ガバナー 関口徳雄様

●ソング 君が代・奉仕の理想



●ガバナー挨拶(1 日目)

本日、ここに台湾から RI 会長代理として第3520地区直前ガバナー張順立(ザン・スウン・リ)様ご夫妻をお迎えして、又地区内外から多くの御来賓御臨席のもとに、国際ロータリー第2790地区2013-14年度地区大会をかくも盛大に開催できますこと、心より御礼を申し上げます。

RI会長代理ザン・スウン・リさんは、中国文化大学建築学科及び台湾大学経営管理学科大学院を卒業され、現在、鋼鉄製のワイヤロープ製造会社を経営されております。又業界の指導者としても活躍されております。

ロータリー歴は古く、1989年RI第3520地区台北市東北ロータリークラブに入会され、20年後の2009年にガバナー補佐を経験され、2012-13年度のガバナーに就任されました。従って、我々の仲間であり得る居仁直前ガバナーと同期ということになります。

表彰等の記録につきましては多数ございまして、ポール・ハリス・フェローから始まり、RI会長賞、メジャードナー、そして2012-13年には日本にも22人しかいないというアーチクランフ・ソサエティーのメンバーとなりました。

正にロータリーの典型的な指導者でいらっしゃることに、RI会長ロン・D・バートン氏が我々の地区にかような卓越した指導者をRI会長代理としてお送り下さったことに同氏に対しあらためて感謝申し上げたいと思います。

また、ザン・スウン・リRI会長代理は、実は、我が地区得居直前ガバナーとは同期の仲間である以上に、いわゆる個人的にも昵懇の間柄であるとのことですので、私共は安心し、且つゆったりとした気持ちで御指導を頂けるものと思っております。

ところで、皆さんご案内のようにロン・D・バートンRI会長は、本年度のテーマとして「ロータリーを實踐し、みんなに豊かな人生を」と提唱されました。

ロータリーの奉仕では、努力すればする程多くを得ることができ、ロータリーを真に實踐し、ロータリーの奉仕と価値観を日々活かす決意をすれば自分がいかに素晴らしい影響をもたらすことができるか分かるはずですよ。そうすることによって、初めて人々の人生を豊かにしようとするやる気・パワーが湧くのです。

そして、何よりもあなた、つまり、ロータリアン自身の人生が豊かになると述

べております。

このことは、私が PETS の際申し上げた通りアーサー・F・シュルドンが提唱したロータリーの第2標語の職業奉仕の概念を意味する「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」に通ずるものと思います。

私流に言い換えれば「世のため人のためにロータリーを實踐しよう」。それにはまず、自分自身を磨き、パワーを身につけ、それを他に影響させることが自分自身のみならず、みんなの人生を豊にすることだと思えます。

我が地区の会員数は、前年度、つまり得居年度では、やっと下げ止まりになり、近頃の大ヒットとなったのですが、私年度に至り、この3ヶ月で(7月～9月)56名の純増であってガバナーとしては若干不満です。私の願いである一瞬でもいいから3000名には程遠く、このままでは再び減少に転じるかもしれません。

私の会員増強の真の狙いは、日本人のロータリアンの人数を増やし、世界のロータリアンの10%を超えることです。そうすることによって、RIの中で日本人ロータリアンの発言力を高めることにあります。そして、その究極の目的は、日本のロータリアンが心に抱く職業奉仕の灯を消さないこと、ロータリーは職業奉仕を中心とした奉仕する人たちの集まりであり、ロータリー財団は勿論必要ですが、私もその価値を評価しますが、しかし、ロータリー財団をロータリーの活動の中核に据えてはならないことを世界に訴えることです。

公式訪問は、現在71クラブを終了し、残すは13クラブとなりました。各クラブの皆さんに温かく迎えられ感謝しております。

全てではありませんが、クラブの予算も潤沢ではないのに懇親会まで催して頂き、かえって恐縮しております。公式訪問では、「奉仕と親睦」のバランスのとれた実践をお願いし、会員増強とロータリアン全員が職業奉仕を理解しなければならない理由と、そして私が考える職業奉仕の理念を語ってまいりました。

各クラブで私は、職業奉仕の理解は難しいというが、それでもロータリアン全員はこれを理解しなければならないと語っております。何故なら、ロータリーには、他の奉仕団体にはない職業奉仕という独特な奉仕活動があるからです。

ですから、ロータリー内外から職業奉仕の説明を求められた時に「難しいから分かりません」ではロータリアンとしての権利放棄、いやむしろ義務違反でしようとして申し上げてきました。

ロータリーの習熟度に応じて、即ち、1年生会員は稚拙でもいいからそれなりに語る必要があると思います。勿論、ベテランの会員は御自分の人生とご自分の職業観としてロータリーの知識ウンチクを傾けた説明が必要だと思います。

さて、本日は「地区指導者育成セミナー」を兼ねております。

後程、RI会長代理張・順立(ザン・スウン・リ)様から「ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を」と題して講演をして頂くことになっております。

RI会長代理のお話から知識情報その他得るべきものがあればその全てを吸収し、我が地区ロータリアンの資質の向上に役立てようではありませんか。

最後にこの大会初日が実りあるものとなりますことを祈念し、御挨拶とさせていただきます。

●ガバナー挨拶(2日目)

1 皆さん、おはようございます。

先程は分区の皆様のお元気なお声を聞きまして安心しました。私の年度の方針「元気なクラブを目指して」のとおりです。しかし、昨日今日の地区大会の準備でガバナーの私が「お疲れ」で元気がありませんでしたが、分区の皆さんの怖ろしい程の雄叫びでかえって元気を頂きました。

2 さて、ここ夢と魔法の王国=東京ディズニーリゾートにおきまして、大会2日目、台湾からRI会長代理として張順立(ザン・スウン・リ)様御夫妻をお迎えし、そして、浦安市長松崎秀樹氏をはじめ、地区内外から多数の御来賓にお越し頂き、かくも盛大に国際ロータリー第2790地区2013-14年地区大会を開催できますことを心から感謝申し上げます。

3 ロン・D・バートン会長の今年度のテーマは、「Engage Rotary, Change Lives」「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」です。そして、こう言います、ロータリーを真に実践し、ロータリーの奉仕と価値観を日々活かす決意をすれば、自分がいかに素晴らしい影響をもたらすことができるかが見えてくるでしょう。そして、初めて人々の人生を真に豊かにしようというインスピレーション・やる気・パワーが湧くのです。そして、何よりもあなた自身の人生が一番豊かになるのです。

そして彼はこう言います。「皆さんはロータリーの襟ピンを身につけることを選択しました。これからどうするかは皆さん次第です。」と。こう言って私共に宿題を投げかけています。

4 我が地区の現況報告ですが、クラブ総数は84クラブで変更はありません。会員数はスタート時点で 2703 名、9月末現在 2759 名です。で、56名の純増となっております。

私の年度は、特に会員増強にも力を入れており、3000名の会員を目指しておりますことから、この程度の純増では若干不満であります。

各クラブにおきましては、何か具体的な工夫のもとに、より一層会員増強に励んで頂きたいと思います。

インターアクトクラブ15クラブ209名の会員です。ローターアクトクラブは、休会が増えましたので現在活動しているのは6クラブ44名です。

青少年交換は、現在長期1名、短期1名ですが、先月末のテストにより、長期2名、短期5名が決まりました。青少年交換の分野で少しは活気が戻ったかと思っております。

ロータリー財団については「未来の夢」計画がスタートしました。ロータリー財団は金を寄付するだけではなく、プロジェクトを企画し、財団から金を引き出し、使用するものだとする意識改革を求めて参りました。この度財団委員会の活躍により、15 クラブより提出された新地区補助金が履行され、ついでグローバル補助金を使った初めての補助金奨学生(柏木麗)が、3 回目の申請でやっとパスし、苦勞の末実現できました。

これで我が地区はグローバル補助金の申請、その他のノウハウを会得しました。

米山記念奨学生については、現在12の大学から23名の奨学生を受け入れて、世話クラブにお願いしております。

5 本日は記念講演として皆様よく御存知の東国原英雄氏をお願いしました。同氏のタレント時代の活躍、その後の宮崎県知事としての卓抜したガバナンス、そして、衆議院議員としての御活躍は目を見張るものがあり、皆様も大変興味のある人物の一人と存じます。

必ずや我々にとってためになる楽しいお話がうかがえるものと思いますのでお楽しみ下さい。

6 ところで、私は、「元気なクラブを目指して」を地区運営の基本方針として、現在71クラブの公式訪問を終えました。各クラブの皆さんに温かく迎えられ、感謝致しております。

クラブ協議会のやり方を少し工夫し、事前にクラブの長所短所をガバナー補佐を通じて自己申告させ、活動計画書の棒読みではなく、皆で議

論するというにしております。

その結果、当該委員長のみならず、全員からそしてあらゆる角度から、特に、短所について、その原因が何か意見や質問が飛び交い、勉強不足のガバナーの私は本当にたじたじでした。

社会奉仕活動0クラブをなくすべく、活動をほとんどしていないクラブについては、「昔はやっていた」とか「これから計画してやる所だ」あーだこーだと言い訳するクラブには「今です」「今でしょう」と言って喝を入れてきました。

此の度の規定審議会の改正により、ガバナーの任務を改正する件が可決され、ガバナーは公式訪問の際、クラブの定款や細則が RI 組織規程に準拠したものか否かを確認する義務が加わりましたことと、弁護士という職業柄どうも定款細則が気になることもありまして、各クラブの定款、特に細則について、これはひどいと思う条項の誤りについては大変厳しく指摘し訂正を求めました。

又、定款細則ではありませんが、殆どのクラブで活動計画書に 2011 年 9 月に RI 理事会によって廃止された「ロータリーの職業宣言」が何らの議論もないまま、そのまま記載しているクラブを多く見かけました。ガバナーの職務として厳しく注意させて頂きましたが、今頃になって各クラブから今はやりのお礼参り、つまり「やられたら やり返す、倍返しだ」と言って襲われるのではないかと心配になっております。月夜の晩以外外出歩かないようにしています。

訪問中に私なりに総体的な感想として気付いたのは、

① 各クラブ自らの短所もキチンと把握し、その原因が奈辺にあるかも承知している一方で、それを改善しようとする意欲のあるクラブと、全くない無気力なクラブがあるということでした。

② そして、無気力なクラブに共通することは、クラブ自体の創意工夫がなく、RIや地区に何かを求め、地区がクラブに何をしてくれるのかというネガティブな待ちの姿勢が見受けられました。

各クラブには自治権があり、RI定款、細則、標準ロータリークラブ定款、いわゆる三則に違反しない限り、原則何をしてもいいのですが、一方で「地区」とは管理の便宜上結び付けられた一定の地理的な地域内にあるロータリークラブのグループですから、地区そのものにはクラブに介入する権限はありません。従って、クラブの方から自治権を行使して自主的に何ができるかを考えるべきものと思います。

例えば、財団のグローバル補助金のやり方にしても、地区からの指導ないし情報を待つのではなく、自らの努力でリソースを開拓し、補助的にこれの情報を得るべく地区を活用ないし利用するという考え方、つまり、発想の転換をして頂きたいのです。

ジョン・F・ケネディが大統領就任演説の際言った言葉として、「国が諸君に何ができるかを問い給うな、諸君が国に何ができるかを問い給え」と言ったことは正に名言であり、ロータリーにも当てはまるものと思います。

次に、私なりの考えとして、良いクラブ・悪いクラブ、つまり、将来発展するか否かの境目として、次のように考えます。

① 若い会員が比較的多いこと

② 古い経験豊かな会員がリーダーシップをとっていること

しかし、ここまでは普通ですが、ここから大きく分かれるのは、リーダーシップをとっているベテラン会員は、若い会員の意見にキチンと耳を傾け、若い会員の意見をよく聞き吟味してクラブ運営に活かしているクラブです。若い会員の意見を聞こうとせず、かえって発言を遮るようなクラブは将来の見込みがありません。若い会員から見て「物言えば 唇寒し 秋の空」となれば、誰も発言しなくなるでしょう。

8 最後に、公式訪問時のガバナー卓話は、「奉仕と親睦」のバランスのとれた実践を訴え、主に職業奉仕についての私なりの考えを語らせて頂きました。職業奉仕は理解が難しいですが、それでもロータリアン全員は、その会員としての習熟度に応じて職業奉仕を理解し、外部に説明しなければならぬ義務があると語っております。

それは、申すまでもなく、我々には他の奉仕団体にはない「職業奉仕」という独特な奉仕活動ないし理念を持っているからです。ですから、ロータリーの内外から、特に他の奉仕団体から、ロータリーの職業奉仕というのは何ですか?と問われた時に、「難しく説明できません」ではロー

論タリアンとして権利放棄ないしは義務違反だと思うからです。

ところが、つい先日、ロン・パートンRI会長は、「ロータリーの友」10月号に「職業奉仕を考える」と題するメッセージを載せておりますが、この冒頭の5行くらいに「10月は職業奉仕を思い出すための月だとし、次に、ロータリアンの中には職業奉仕を忘れられた領域の奉仕だと呼ぶ人がいるが、私（ロン・パートン）はそうは思わない」と述べております。

彼は否定しておりますが、それでも10月は職業奉仕を思い出すための月だとか、ロータリアンの中には職業奉仕を忘れられた領域の奉仕だと考える人がいることに私は衝撃を受けました。世界の120万人のロータリアンの中に職業奉仕をかように軽んじている者がいるということ、そして、我々が油断している間に世界のロータリアンの意識がかように変化してきたことに気が付かなかったことは我々地区を指導する者の一人として責任を感じる次第です。

私は、ロータリアンは全てがそのロータリーの習熟度ないしは程度の差

はありながら、そして時々であるかもしれませんが、それでも「奉仕の理念」を目標にして、二つのモットーを胸に秘め、4つのテストを計りとして仕事をしているものと思っておりました。

しかしながら、近頃のRIから見た職業奉仕の位置づけは、案外先に申し上げた如きものかもしれません。職業奉仕は、忘れられた領域の奉仕だと考えているロータリアンがいたとしても、私はロータリーは職業奉仕を中心とした奉仕する人たちの集まりであり、職業奉仕は地味だが天空に鈍く輝く北極星であり、我々ロータリアンを正しい方向に導く指針だとして愚直に語り続けていこうと思います。

そして、最後に、こう申し上げたい。職業奉仕はロータリーにとって未来永劫のものだと。

「Forever and ever」
御清聴ありがとうございました。

